

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600349		
法人名	有限会社 ナチュラル・ライフ		
事業所名	グループホーム香寿	ユニット名	海
所在地	静岡県磐田市平間1259-1		
自己評価作成日	令和 2年 8月 20日	評価結果市町村受理日	令和2年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2276600349-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム香寿は『尊厳のある その人らしい 穏やかな生活』を理念に掲げ、たとえ認知症になっても最期までその人らしく、家庭の環境の中で生活ができるように、ひとりひとりのレベルに合わせて、できることは自分でやっていただき、本人の力を活かした支援 等一人一人に寄り添ったケアに努めています。ご家族や地域の方との関係作りも大切に地域の中で安心して暮らせるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内には花壇と畑があり、季節の花、ナスや大葉が植えられていた。花壇の前にはベンチが並べられていて、外気浴ができる。周りは畑に囲まれ、静かで日当たりが良く、建物は平屋で内部もきれいに維持されている。系列のデイサービスがあり、認知症カフェの時には訪問している。理念に基づき、利用者目線で利用者が慣れ親しんだ生活が継続できるような支援をしている。職員同士意思疎通がしやすく、タブレット入力や薬局との契約、リフト浴、調理員の配置、休日が取りやすい等働きやすい環境を作っている。職員は声かけも優しく、挨拶しており、落ちついた対応ができています。フローリングの色合いや掲示物を最小にし落ちついた雰囲気になっている。建物内の窓のカーテンを障子にし家族負担を減らし和モダンにしている。自治会長は3地区から運営推進会議に参加してくれ、事業所の祭りに来てくれるなど地域連携ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のある その人らしい 穏やかな生活」を理念にあげ、一人ひとりがその人らしく生活ができるように取り組んでいる。事務所や玄関にも掲示し職員が意識出来るように働きかけている。	会社の理念と香寿の目標があり、事務所や玄関、職員トイレなどに掲示し、職員には常に意識付けできるようにしている。また、会議でも理念を話すようにしている。職員は理念に基いて個人の目標を作り、半年毎に見直しをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会の行事などに参加している。散歩に出掛けた時など挨拶をかわたり、夏祭りに地域の方や自治会の方を招待したりと地域の方々とのつながりを築くようにしている。	自治会に加入し、回覧板が回ってくる。コロナ前は地区の神社で行われる秋祭りに職員と利用者が出かけていったり、事業所の夏祭りに自治会長を招待したり、ボランティアが来たりしていた。小学生の福祉体験にも協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の福祉体験を受け入れている。地域に向けた「認知症講座」やいつでも相談できる場所等を行っていきたくと計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は2か月に一度開催、半年に1回同法人のデイサービスと合同開催もしている。運営状況の報告 日々の様子 サービスの質を向上できるように努めている。	自治会長3名、民生委員1名、家族、行政の市役所職員か地域包括支援センターの職員が参加し2ヶ月に1度第4日曜日に開催している。年に2回は行政に相談してディサービスと同日に行なっている。議事録は職員に回覧し、出席した家族に郵送しサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方には毎回推進会議に参加して頂いている。介護相談員の訪問もあり、ご意見を頂く機会があったり、市の開催している会議に参加している。	運営推進会議の議事録は郵送している。介護相談員が月1回2時間2人訪問してくれ、地域包括支援センターからは入居の相談があり、認知症カフェを系列のディサービスで行なっている。市の連絡協議会には管理者が参加し包括の連絡会には会社の地区担当職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしている。身体拘束はせずセンサー対応 玄関にチャイムをつけ、出入りの際は必ず確認している。夜間のみ防犯上の理由から施錠している	マニュアルは整備され、委員は管理者、ケアマネージャー、看護師、会社の指導員で構成され、会社で年に2～3回行われている。研修はコロナ禍のため、指導員が作成した資料を年に3～4回全職員に回覧している。職員は身体拘束は行わないことを理解している。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や着替え時にアザや傷がないか観察している。身体の虐待・言葉での虐待を含め常に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解ができるように研修を行っている。その制度が必要な場合にはすぐに支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、契約時に内容を分かり易く説明している。改正時にも変更内容を十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様から気軽に意見を頂けるように、日々コミュニケーションを大切にしている。頂いた意見は申し送りなどで職員で話し合いをしている。	家族にA4、2枚の日常生活のスナップ付きお便りを担当職員がコメントをつけて2ヶ月に1度郵送している。よく来所してくれる家族からは面会の時に意見を伺い、あまり来れない家族には電話やメールで意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも提案や意見ができるように、普段から声をかけたり話がしやすい環境をつくるように心がけている。面談を設け、意見や提案を聞く機会を設け反映するように努めている。	職員は目標管理シートに業務から1つ、ケアから1つ目標を決め、半年に1度自己評価をし、管理者と面談をしている。内容は本部にも提出している。管理者は介護職も兼任しているので利用者の様子がわかり、職員と意見交換がしやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートに目標を記入し半年ごとに目標が達成できたのかを見直しを行い向上心を高める働きを行っている。職員ひとりひとりの状態等を把握し業務を任せている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの状況に合わせ法人内部の研修を行ったり、外部研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部 外部研修に参加し、同業者との交流を深めるように努めてたり、研修に一環として同法人の施設で出向することもある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入居されるまでにご本人の自宅に伺い話をしたり、入居される生活の場を見て頂いたりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族に困っていることなどを尋ねながら密にコミュニケーションをはかり、ご家族の要望・不安など話して頂ける関係作りを心掛けている。介護に対する要望等も聞き取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に問題となる部分を見極めケアマネを連携を取り、ご本人にとって良いサービスが受けれるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族から聞き取った生活歴や得意な事、好む事を入居後も活かせるようにしている。できること、できないことを見極め、できることは一緒に行い、一人ひとりにあったケアをする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族や職員の話も交えながら入居者様自身を中心とした関係作りに務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の関係のある方や友人関係をあらかじめ家族に聞き交流を支援に努めている。昔の写真を見ながら話を聞き出すように支援している。	家族、友人知人等が面会に来てくれる。お気に入りの魚屋に行きたい、図書館に行きたいなどの利用者からの要望を家族に伝え、職員が購入して来たり希望を叶えるようにしている。コロナ禍で職員と話す機会が増え、聞く時間が確保できるようになった。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している入居者様に対して職員が中に入り、他者入居者様との交流を持てるようにしている。常に入居者様への声かけをし孤立のない生活に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族が訪問してくれたりと関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から希望を聞いたり、困難な場合はご家族から情報を頂き職員間で話し合い、ケアプランに反映させている。	以前は全体会議を開いていたが、コロナ禍で少人数のカンファレンスを月に3~4回開くようになった。利用者は入浴など1対1になる時に要望を話してくれるが、困難な利用者には家族から話を聞いたり表情を見て変化を見逃さないよう観察している。気付いたことは申し送りノートで職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から得意な事や好きな事等情報収集を行い、当施設でも馴染みのある暮らしができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人にあわせて居室で過ごしたり、テレビを見たりとご本人のペースで生活して頂いている。日によって変わる体調の変化に目を向けその日の体調のあったケアも行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中でご本人の表情や言動の原因の把握に努め、意見やアイデアを出し合いながら介護計画を作成している。	利用者1人1人に担当職員がいて気になったことをモニタリングシートに記入している。少人数のカンファレンスやシートを参考に医師や看護師の意見を聞いて、計画作成者が介護計画書を作成している。カンファレンスでケアの方法を統一している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの統一を図るため、ケア確認を行い、職員間で情報共有を行うとともに、毎日生活の様子等を記録し介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週3回歯科衛生士が口腔内のチェックを行ったり、口腔ケアのやり方を指導したりしてる。定期的な歯科往診も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや行事へ参加し、地域の方と交流できるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医が往診に来ている。協力医にいつでも相談できるようになっている。ご本人や家族が希望するかかりつけ医の場合は基本、ご家族に支援をお願いしているが職員が対応することもある。	利用者は協力医の往診を月に2回受けている。協力医は24時間対応で、入院施設もあるので利用者、家族、職員ともに安心している。眼科や皮膚科などでも初期対応に応じてもらえ、歯科にも定期的に往診をしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日に看護師による健康管理を行っている。何か気になることがあった場合は、協力医や看護師に相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご本人の現状や今後予測できる状態について、看護師や主治医と相談し、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、入所時より、当施設にてできることやできないこと、方針を説明している。その段階に至った時は、主治医と家族と話し合いの場を設けている。	入居前に重度化した場合の事業所の方針を説明し、同意書を取っている。利用者の体調に変化がみられたら、看護師とケアマネジャーが相談をし、医師に状態を知らせ相談する。医師は家族に説明、同席した管理者と今後の事を話し合う。重度化の研修は看護師が行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応はマニュアル作成をしてある。緊急時は管理者・看護師に指示を仰ぐ体制となっている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、通報、初期消火、避難訓練を行っている。水害、夜間を想定とした訓練の実施も行っていく予定である。	年に3回、日程は決めず地震、火災想定防災訓練を行なっている。地域の防災訓練には会社の地区担当職員が参加している。備蓄は1週間あり、リストも準備されている。市から災害に関するファイルが渡され市とは連携が取れている。自治会長からは地区の災害の話も聞いている。	昨年の台風で停電を経験し、事業所には太陽光発電設備と発電機があるので対応できたが課題が残った。対応について十分な検証がされていないので今後、夜間想定防災訓練を行い、課題を再確認し、対応されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し排泄の失敗があっても羞恥心に配慮しながら自尊心を傷つけないように誘導・声掛けをするように支援している。	利用者の呼称はさん付けで、利用者の希望があれば親しみのある呼び方をするが、その際は家族に相談し了解をとっている。トイレの声かけは小さな声でお手洗いという。尊厳の研修は行なっており、職員でできていない場合はリーダーや管理者が後で注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で入居者様が自己決定ができるように、その方が理解しやすい言葉かけや選択できるように心掛けている。自己決定が難しい方は表情やしぐさで読み取るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムやその日の体調や気分を考慮し、居室で休んだりテレビを見たりと本人のペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるようにその方の好みに合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、食器拭きなどできることは一緒に行っている。好きな食べ物を聞きメニューに取り入れたり、嫌いなものは代わりの物を出したりしている。	月毎におおよその献立を決め、食材配達業者やインターネットに注文をして届けてもらっている。肉、魚、野菜は2日に1度配達してもらっている。調理専門の職員が昼夕食を調理し、野菜の皮むきや食器拭き等は利用者のできる方に手伝ってもらっている。敷地内の畑で取れた野菜を使って一品添えることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を把握し、一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。食事量が少ない方には補食等を勧め対応している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせ、声掛け・援助を行っている。定期的な歯科往診もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄して頂けるようにトイレの声掛け、誘導を行っている。又排泄サインを見逃さないようにしている。	タブレットに排泄の記録を入力して、データ化する事で利用者の傾向を把握し、個々の排泄のパターンがわかり易くなった。また、ちょっとした仕草を見逃さず、失敗のない排泄に繋げている。リハビリパンツから布パンツに移行などの改善例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを勧めたり、トイレ時に腹部マッサージをするなど個々に応じた対応をしている。できるだけ自然排泄ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今現在入浴拒否をする方がいないため、週2～3回程度、入浴出来ている。リフト浴もある為その人にあった入浴支援をしている。	利用者の希望にあわせて、毎日午前午後と対応している。リフト浴ができる浴室があるので、状態によってはユニット間で互いに浴室を交換して利用している。職員と1対1になるので話が弾むことがある。同性介助にも応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は活動的に午後は落ち着いた生活が送れるように努めている。夜間安心して休んで頂けるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重要性をしっかりと理解するようにしている。薬の変更、用法、容量の変更があった時は、全員が把握するために、申し送りノートに記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、食器拭き、野菜のむきなどその方が持っている力が発揮できるように努めている。行ってくれたことに対して「ありがとうございます」と声かけもしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望や身体状況に合わせ、買い物や散歩・ドライブに出かけたりと楽しみが持てるように支援している。	今は散歩は敷地内の花壇を眺めながらベンチに座っての外気浴が中心であるが、コロナ前は100円ショップやスーパーで買い物をしたり、海を見に行ったり、ツツジの花を見たり、回転寿司にもでかけ、希望に答えていた。近くの系列のデイサービスで認知症カフェの時は出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる場合は所持して頂いている。買い物の際は自分で支払いをしていただけよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談し、ご本人が電話をかけたい時にかけられるように努めている。電話がかかってきた時はご本人に取り次ぎしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に季節の花を飾ったり、七夕・クリスマス・ひな人形など季節感のある空間づくりを居心地の良く過ごせるように支援している。	玄関前に花壇があり、季節の花が咲いている。利用者が草取りをしてくれる方がいる。軒下にベンチが置かれ、ゆったりと花を眺めて外気浴ができる。平屋の真っ直ぐな建物なので陽がさし、風が通り、縦の圧迫感がない。室内は落ち着ける空間を心がけていて、掲示物は決められた場所に華美にならないように飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前に椅子に座ったり、隣のユニットの入居者様と交流を持つなどその人に合った安心できる場所を作るように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、慣れ親しんだ物を持ち込んで頂き、安心できる生活が送れるように努めている。自分の場所と認識できるように表札を設置している。	一間幅の押し入れに布団や衣装の入った引き出しケースが入っているのも物が収納されていてすっきりしている。中にはテレビや小さなタンス、お位牌を持ち込まれている部屋もある。カーテンの代わりに障子をはめられ、落ちついた感じである。利用者の中には自分で掃除をされる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を設け自分の部屋(家)とわかるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600349		
法人名	有限会社 ナチュラル・ライフ		
事業所名	グループホーム香寿	ユニット名	太陽
所在地	静岡県磐田市平間1259-1		
自己評価作成日	令和 2年 8月 20日	評価結果市町村受理日	令和2年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2276600349-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム香寿は『尊厳のある その人らしい 穏やかな生活』を理念に掲げ、たとえ認知症になっても最期までその人らしく、家庭の環境の中で生活ができるように、ひとりひとりのレベルに合わせて、できることは自分でやっていただき、本人の力を活かした支援 等一人一人に寄り添ったケアに努めています。ご家族や地域の方との関係作りも大切にし地域の中で安心して暮らせるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のある その人らしい 穏やかな生活」を理念にあげ、一人ひとりがその人らしく生活ができるように取り組んでいる。事務所や玄関にも掲示し職員が意識出来るように働きかけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事などに参加している。散歩に出掛けた時など挨拶をかわたり、夏祭りに地域の方や自治会の方を招待したりと地域の方々とのつながりを築くようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の福祉体験を受け入れている。地域に向けた「認知症講座」やいつでも相談できる場所等を行っていきたくと計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は2か月に一度開催、半年に1回同法人のデイサービスと合同開催もしている。運営状況の報告 日々の様子 サービスの質を向上できるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方には毎回推進会議に参加して頂いている。介護相談員の訪問もあり、ご意見を頂く機会があったり、市の開催している会議に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしている。身体拘束はせずセンサー対応 玄関にチャイムをつけ、出入りの際は必ず確認している。夜間のみ防犯上の理由から施錠している		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や着替え時にアザや傷がないか観察している。身体の虐待・言葉での虐待を含め常に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解ができるように研修を行っている。その制度が必要な場合にはすぐに支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、契約時に内容を分かり易く説明している。改正時にも変更内容を十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様から気軽に意見を頂けるように、日々コミュニケーションを大切にしている。頂いた意見は申し送りなどで職員で話し合いをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも提案や意見ができるように、普段から声をかけたり話がしやすい環境をつくるように心がけている。面談を設け、意見や提案を聞く機会を設け反映するように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートに目標を記入し半年ごとに目標が達成できたのかを見直しを行い向上心を高める働きを行っている。職員ひとりひとりの状態等を把握し業務を任せている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの状況に合わせ法人内部の研修を行ったり、外部研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部 外部研修に参加し、同業者との交流を深めるように努めてたり、研修に一環として同法人の施設で出向することもある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入居されるまでにご本人の自宅に伺い話をしたり、入居される生活の場を見て頂いたりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族に困っていることなどを尋ねながら密にコミュニケーションをはかり、ご家族の要望・不安など話して頂ける関係作りを心掛けている。介護に対する要望等も聞き取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に問題となる部分を見極めケアマネを連携を取り、ご本人にとって良いサービスが受けれるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族から聞き取った生活歴や得意な事、好む事を入居後も活かせるようにしている。できること、できないことを見極め、できることは一緒に行い、一人ひとりにあったケアをする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族や職員の話も交えながら入居者様自身を中心とした関係づくりに務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の関係のある方や友人関係をあらかじめ家族に聞き交流を支援に努めている。昔の写真を見ながら話しを聞き出すように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している入居者様に対して職員が中に入り、他者入居者様との交流を持てるようにしている。常に入居者様への声かけをし孤立のない生活に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族が訪問してくれたりと関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から希望を聞いたり、困難な場合はご家族から情報を頂き職員間で話し合い、ケアプランに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から得意な事や好きな事等情報収集を行い、当施設でも馴染みのある暮らしができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人にあわせて居室で過ごしたり、テレビを見たりとご本人のペースで生活して頂いている。日によって変わる体調の変化に目を向けその日の体調のあったケアも行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中でご本人の表情や言動の原因の把握に努め、意見やアイデアを出し合いながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの統一を図るため、ケア確認を行い、職員間で情報共有を行うとともに、毎日生活の様子等を記録し介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週3回歯科衛生士が口腔内のチェックを行ったり、口腔ケアのやり方を指導したりしてる。定期的な歯科往診も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや行事へ参加し、地域の方と交流できるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医が往診に来ている。協力医にいつでも相談できるようになっている。 ご本人や家族が希望するかかりつけ医の場合は基本、ご家族に支援をお願いしているが職員が対応することもある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日に看護師による健康管理を行っている。何か気になることがあった場合は、協力医や看護師に相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご本人の現状や今後予測できる状態について、看護師や主治医と相談し、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、入所時より、当施設にてできることやできないこと、方針を説明している。その段階に至った時は、主治医と家族と話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応はマニュアル作成をしてある。緊急時は管理者・看護師に指示を仰ぐ体制となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、通報、初期消火、避難訓練を行っている。水害、夜間を想定とした訓練の実施も行っていく予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し排泄の失敗があっても羞恥心に配慮しながら自尊心を傷つけないように誘導・声掛けをするように支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で入居者様が自己決定ができるように、その方が理解しやすい言葉かけや選択できるように心掛けている。自己決定が難しい方は表情やしぐさで読み取るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムやその日の体調や気分を考慮し、居室で休んだりテレビを見たりと本人のペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるようにその方の好みに合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、食器拭きなどできることは一緒にやっている。好きな食べ物を聞きメニューに取り入れたり、嫌いなものは代替りの物を出したりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を把握し、一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。食事量が少ない方には補食等を勧め対応している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせ、声掛け・援助を行っている。定期的な歯科往診もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄して頂けるようにトイレの声掛け、誘導を行っている。又排泄サインを見逃さないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを勧めたり、トイレ時に腹部マッサージをするなど個々に応じた対応をしている。できるだけ自然排泄ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今現在入浴拒否をする方がいないため、週2～3回程度、入浴出来ている。リフト浴もある為その人にあつた入浴支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前は活動的に午後は落ち着いた生活が送れるように努めている。夜間安心して休んで頂けるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重要性をしっかりと理解するようにしている。薬の変更、用法、容量の変更があつた時は、全員が把握するために、申し送りノートに記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、食器拭き、野菜のむきなどその方が持っている力が発揮できるように努めている。行ってくれたことに対して「ありがとうございます」と声かけもしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人の希望や身体状況に合わせ、買い物や散歩・ドライブに出かけたりと楽しみが持てるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる場合は所持して頂いている。買い物の際は自分で支払いをしていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談し、ご本人が電話をかけたい時にかけられるように努めている。電話がかかってきた時はご本人に取り次ぎしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に季節の花を飾ったり、七夕・クリスマス・ひな人形など季節感のある空間づくりを居心地の良く過ごせるように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前に椅子に座ったり、隣のユニットの入居者様と交流を持つなどその人に合った安心できる場所を作るように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、慣れ親しんだ物を持ち込んで頂き、安心できる生活が送れるように努めている。自分の場所と認識できるように表札を設置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を設け自分の部屋(家)とわかるようにしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	昨年の台風時の停電において対応できていない部分があり、災害時、停電時における備蓄量や職員各自の対応の理解不足に課題があり、課題を明確にできていない、課題に対しての検討・改善ができていない。	災害時における今現在の課題の明確化、明確になった課題についての検討・改善をする。	職員全体で防災の意識を高める研修、行動マニュアルの周知の勉強会をする。備蓄や避難経路、各職員の役割の明確にする検討会実施回数を多くとる。(3ヶ月に1回程度)	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。